

「戦争をしない」という憲法の誓いは、被爆国日本の原点。平和あってこそその暮らし

原水爆禁止世界大会に参加

今にも雨が落ちだしそんな空模様なのに、驚くほどのジーンジーとけたたましい蝉の声。暑い夏、そして熱線をあびた広島の8月6日もこんな朝だったんだろうか。

8/4の開会式には、埼玉から200人、国内外から6500人が参加。

日本被団協の坪井代表委員、8/6の被爆から意識が戻ったのは9/25。一年後、畳を這うことができた。現在、心臓病・ガンなど様々な病気をもっている。“核不拡散条約は、核をこれ以上増やさないといいもので、一部の核保有(国)を認めている。こんなバカげたことはない！

戦争とは、命のやりとり。なぜ、核兵器をつくり、持つのか！核兵器一発で世界の進歩を吹き飛ばす！と核兵器の早期廃絶を訴えた。

平和行進は4コース、北海道→東京は80日間、東京→広島は90日間かかり、歩き通した人は9人。

沖縄からは、沖縄県全市町村長と全議会議長が賛同した建白書に基づき、辺野古基地建設はさせない「島ぐるみ会議」が発足。辺野古基地が作られれば、耐用年数は200年！基地の恒久化につながると訴える細く高い悲痛な声に涙があふれてきました。

翌日は、「核兵器廃絶とくらし」の分科会に参加。参加者120人、若い人もけっこう多く、初参加は52人。日本には、憲法9条(平和)と25条(福祉)がある。

アメリカは、国からの自由と、生活保護も皆医療保険も産前産後の休暇もなく、9条も25条もない貧困国家・軍事国家である。

戦後の日本は、軍事費を一定に抑え、経済に力を入れ、社会保障も発展させ、平和が福祉を支えてきた。しかし、いま、長時間や派遣労働、失業や較差など、**貧困大国への道**を

皆野町では、原爆投下の8/6・9、終戦記念日の8/15に、防災無線で恒久平和への「黙禱」の呼びかけが行われた

進んでいる。労働環境や生活保護など福祉25条が保障されないと、「それどころではない！」と、核廃絶も原発再稼働も集団的自衛権行使も、先のことが考えられない状況がある。

25条が徹底されれば、貧困から免れる。福祉が平和を守る。4時間半に及び討論・報告であった。

8/6の平和記念式典には一般人は参加できず、テレビを見ながら黙禱をした。そのすぐ後、友人から「皆野の防災無線から広島原爆投下への黙禱の呼びかけがあった」とメールがあり、「すごいことだね」と返信した。こんな時だからこそ、平和の声をもち上げよう。

来年は戦後70年、4月の国連軍縮再検討会議へ大代表団で集めた署名を提出。



8/10 秩父で平和のついで

十時から午後三時まで三部構成で、第一部「憲法学んで平和を守る」、第二部は「すいとんを食べながら語り合い」。第三部は「破憲許すな平和集会」の予定でしたが、

台風の影響で講師の到着が遅れ、前後して、最初に「みんなの測定所in秩父」の方から、秩父の放射能の測定結果の説明。鹿の解体測定等が話されました。到着された講師の伊藤 朝日太郎さん(若手弁護士)の会)から集団的自衛権・憲法のことを歴史をからめ、わかりやすく話され、最後に、みんなに是非行動してほしい事を二つ話されました。秘密保護法に関するパブリックコメントをぜひ地元選出の国会議員にと。また、集団的自衛権についての具体的な法律成立を止める運動をこの事でした。秩父ユネスコ協会の方が高校生と自分たちで考えて作った紙芝居を使つての朗読劇をみて、若者も頑張つてと思いました。(T・S)